

熱帯雨林の狩猟を知る

アマゾン、コンゴ盆地、ボルネオ島——熱帯雨林は地球上で最も生物多様性の高い地域です。ゾウやバク、ゴリラやジャガーといった大型哺乳類も暮らす「野生の楽園」のイメージが強い一方で、熱帯雨林には私たちと同じ人間も暮らしています。

私たち日本人が海の魚を食べることを愛するように、彼らは森の動物を食べることを

愛しています。そして日本の漁業が危機に瀕しているように、熱帯雨林の狩猟も危機に瀕しています。

このセミナーでは、熱帯雨林に暮らす人々の写真に囲まれながら、彼らにとって狩猟とは何なのか、私たち日本の研究者の役割とは何なのか、みなさんと考えてみたいと思います。

スピーカー 本郷 峻

総合地球環境学研究所 准教授 Fashloks プロジェクトリーダー
京都大学白眉センター／アジア・アフリカ地域研究研究科 特定講師

専門分野：保全科学、野生動物管理学、霊長類学

経歴：2016 年京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了博士（理学）

同霊長類研究所研究員、同アフリカ地域研究資料センター特定研究員国際協力機構（JICA）長期専門家などを経て、2024 年より現職。

長期フィールド調査を研究の主軸とする。自動撮影カメラなど科学的手法と狩猟者の地域知とを組み合わせ、熱帯雨林地域の野生動物モニタリング法の開発と狩猟マネジメントの構築に取り組む。



ゲストスピーカー Marlon del Aguila Guerrero

マルロン・デル・アギラ・ゲレロ（Marlondag）は、アマゾンに抱かれた都市タラポトを拠点とする、ペルー出身の野生動物・自然写真家。Fashloks プロジェクトメンバー。

自然や景観と人々との関係をテーマとし、先住民文化や野生動物の美しさと現実をあわせて描き出すことで、保全への関心を喚起してきた。近年はアマゾンにおける持続可能な発展に関するプロジェクトの記録にも携わり、WWF、Conservation International、CIFOR、USAID などの団体とも協力している。写真はモンガベイ・ラタムやペルー国内の媒体にも掲載された。妻と猫のルネとともに故郷タラポトで暮らす日々と、世界中の自然をカメラに収める旅を楽しんでいる。



ゲーム 赤岡 佑治

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 アフリカ地域研究専攻 大学院生
Fashloks プロジェクトメンバー
研究で開発中の「狩猟ゲーム」を行います。

総合地球環境学研究所 Fashloksプロジェクト

世界の熱帯雨林では過剰な狩猟による野生動物の減少が懸念され、対策として強硬な保全政策が進められています。しかし、それが地域住民の狩猟文化をも脅かしています。この「野生肉危機」を解決するには、地域知と科学の対等な対話にもとづく地域住民と保全機関の協力が不可欠です。Fashloks プロジェクトでは、熟練した狩猟者や地域固有の知識を持つ住民、保全行政、そして研究者の間で調査の計画から実施、結果の評価とマネジメントの意思決定までを一緒に行う「共同製作研究」を通じて、地域主導型の持続的狩猟管理システムの構築を目指しています。

日時 2025年10月18日（土） 15:30-16:30

参加費 無 料 事前申込 / 定員 30 名

当日参加も可能ですが、定員に達し次第締め切らせていただきます。

予約フォーム：

<https://forms.office.com/r/QwuR9dCUZh>



場所 京都・伏見港「珊瑚庵」京都市伏見区杉本町 452

築 130 年の京町家ギャラリー：
研究者やアーティスト、地域・企業の方々、学生たちの交流の場

